

スピーカーアキュライザーの活用(7)

—AXIOM 80—

1. 始めに

インフラノイズ社のスピーカーアキュライザーSPA-7は、まずメインシステムのFAL C90EXWについて実施し、スピーカーアキュライザーの導入シリーズで報告してきました。今回、スピーカーアキュライザーを追加購入してサブシステムにも導入することにしました。これらの経過は、前報(1)で報告しています。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

今回は、サブシステムのうち、Goodman AXIOM 80に適用してみます。

AXIOM 80の設置状況は、サブシステムの再構成(11)で報告しています。

SPA-7の設置の状況については、スピーカーアキュライザーの活用(1)で報告済みですが、改めて以下に整理します。

ケーブルはスピーカーアキュライザーの活用(1)で報告のとおり、ベルデンのケーブルに替えて、余ってきたスピーカーリベラメンテ 5m 長を使用し、スピーカーアキュライザーにバナナプラグで接続し、スピーカーアキュライザーからバナナプラグ経由でAXIOM 80に接続します。

音源は、スピーカーアキュライザーの活用(2)からスピーカーアキュライザーの活用(6)までの報告で使用した各種音源から一つずつ選択します。

アナログ

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

CD

Hyperion CDA67993

ウジェーヌ・イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1番~6番

アリーナ・イブラギモヴァ(ヴァイオリン)

ハイレゾファイル音源

Universal Music UCCG-40074(MQACD)

ドボルザーク 交響曲 8番・9番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

グスタフ・マーラー 交響曲 3番

ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィル

STAGE+

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番 31 番 32 番

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

駆動アンプは、Pilotone Tungsol 5881pp とします。CD の再生は、TruPhase の入力の都合上、バランス出力を TruPhase に入力した前報(3)から下記の経路への変更としています。

EMT981(*)→CRV-555(*)→DAC-1→TruPhase

*GPS-777 よりクロック入力

アナログのバッハの *Sonatas & Partitas* は、ミルシュテインのヴァイオリンの滑らかさや艶もが向上しており、切れのよいボウイングで AXIOM 80 にありがちな音の粗さは感じられません。

CD のイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、ともすれば際どい音が出がちなこの曲ですが、イブラギモアのダイナミックなボウイングが相当程度滑らかになっています。

ハイレゾファイル音源(MQACD)のドボルザークの交響曲 8 番・9 番は、高域が勝って、音の緻密さはメインシステムの FAL C90EXW に及びませんが、金管などの響きのスケール感は十分にあります。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールのマーラーの交響曲 3 番は、冒頭のホルンやグランカッサの弱打も再現されています。音のメインシステムの FAL

C90EXW に及びませんが、かなりのスケール感があります。

STAGE+のベートーヴェンのピアノソナタは、打鍵の鋭さや余韻まで含めた響きの豊かさがでています。

4. まとめ

前報(1)の試聴でも AXIOM 80 がスピーカーアキュライザーの導入で様変わりしたことを述べましたが、音源を広げての試聴でスピーカーアキュライザーの効果を確認できました。

以上